



Message from the CFO

CFOメッセージ

取締役 CFO 内部統制担当

池谷 憲司

環境変化に耐えうる 財務マネジメントにより 企業価値向上を図る

新型コロナウイルスで大きな影響を受けた 第12次中期経営計画の最終年度

2017年4月からスタートした第12次中期経営計画(以下、「12次中計」と言う)が2020年6月末をもって終了し、2020年7月からは第13次中期経営計画(以下、「13次中計」と言う)がスタートしております。

12次中計の3年間で振り返りますと、1、2年目においては各年度に計画した業績予想数値と大きく乖離することなく、かつ当該中計の大きなテーマとして掲げていたR&Dおよび基幹事業への積極的な投資を着実に実行することができた2年間となりました。

3年目となる中計最終年度については、グループ内再編による株式会社インテージヘルスケアのスタートや、当社グループの事業運営効率化を図ること等を目的として、最繁忙期の3月末から6月末へと決算期変更(2020年6月期は15か月の変則決算)を行うなど、今後のグループ運営を睨んだ施策を展開しました。一方、やはり大きかったのは2020年1月に中国で感染が報告され世界的に広がった新型コロナウイルスの影響です。感染拡大の影響を受け、最

繁忙期にあたる2月から3月にかけて当社グループにおいても一部の業務に中止あるいは延期が発生するも、2020年3月までの12か月間の業績としては、過去最高の営業利益を達成できました。その後、4月に日本国内で緊急事態宣言が発出されると、事業停滞を余儀なくされ、6月には業績予想の修正を発表する事態となりました。しかしながら、基幹事業の安定性、オンラインでの調査への順調なシフト、データを活用した積極的な情報配信などの営業活動なども功を奏し、極端な売上減少とはならず15か月の2020年6月期を終えました。

13次中計でも攻めと守りのバランスを取りながら 価値向上を目指す

13次中計の3年間においても、当社グループの基本的な方針である“中長期的な成長による持続的かつ安定的な企業価値の向上”を目指す路線に変更はありません。

新型コロナウイルスの及ぼす影響は極めて不透明であり、経済回復の見通しにも大きな不確実性を伴うことから、13次中計の計数計画については、3年目には新型コロナウイルス発生前の成長軌道に回復できることを想定し、最終年度の2023年6月期の売上高625億円、営業利益50億円、連結営業利益率8.0%を掲げております。

この目標に向かう上で重視すべきポイントとして、まずROEのマネジメントが挙げられます。当社は中長期的なROE向上が企業価値の創造に関わる重要な指標と捉えています。新型コロナウイルスの影響により2020年6月期は利益面での落ち込みがあったことからROEは5.9%

(2019年3月期は10.2%)となりましたが、この影響は徐々に回復していくと見通し、中計期間中に以前の水準にまで戻すことを目指しております。

当社は安定的かつ強固な財務基盤を構築するよう努めてきた結果、2020年6月期においては自己資本比率が67.8%、連結純資産額は283億円となっております。この基盤をベースとして、新型コロナウイルスの影響は続くと思いますが、成長のため積極的な投資・M&Aを実行し、お客様におけるデジタル環境の変化に対応することで利益の創出に努めてまいります。

株主還元と投資家とのエンゲージメントは最重要課題

株主の皆様に対する利益還元は、経営上の最重要課題の一つとして位置付けています。連結業績をベースに配当と内部留保のバランスを考慮した利益配分を行うことを基本的な考え方とし、連結配当性向の目標を35%とし、引き続き持続的・安定的な株主還元を行ってまいります。

今回の新型コロナウイルスのように経営環境に大きい変化が起きた場合には必ずしもこの配当性向のみをKPIとする

意味は低下すると考えています。そのため、PLにおける利益額を考慮しながら配当性向をKPIとして設定しつつも、中長期的なBSのマネジメントを実施し、株主の皆様への利益配分を考慮し配当額を決定していきたいと思っております。加えて、自己株式取得に関しては、市場環境等を総合的に勘案しながら機動的に対応し、資本効率の向上を図っていく所存です。

投資家とのエンゲージメントは、機関投資家・アナリスト向けの決算説明会や機関投資家へのIR訪問を中心に継続的に実施してきております。こちらも新型コロナウイルスの影響を受け、電話会議やZOOMウェビナーなどオンライン手法による実施が増加しておりますので、今後も状況を鑑みながら積極的に対話を図っていきたくと考えています。投資家との対話を通じて出てくる当社の成長戦略・事業戦略・ESG等に対する質疑や意見表明は、当社の経営方針を検討していく中でヒントとなる場合もあり、建設的かつ重要な機会と位置付けております。

引き続き、株主・投資家におかれましては、重要なステークホルダーとして「データの時代」に立ち向かう当社をご支援いただきたいと思います。

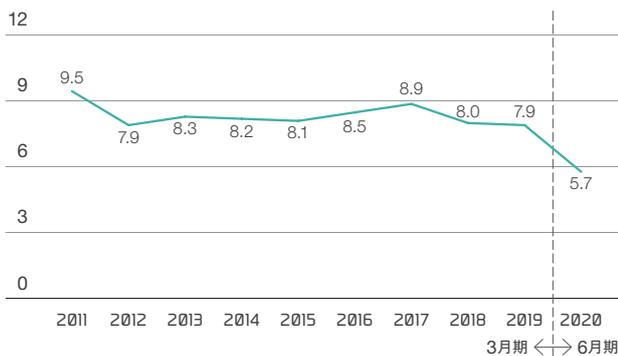
2020年6月期について

連結業績(15か月間)

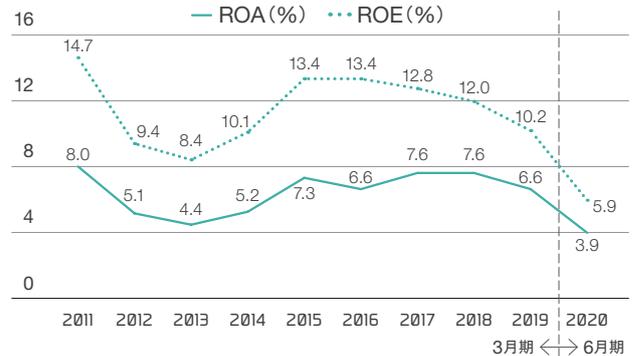
当期は新型コロナウイルスの影響を受けましたが、2019年4月から2020年3月までの12か月は過去最高益を達成しました。一方、2020年4月から6月は影響を大きく受けました。配当については当初の予定通り実施することができました。

売上高	668億円	営業利益	37億円	経常利益	37億円	親会社株主に帰属する当期純利益	16億円	1株当たり配当金	30円
-----	-------	------	------	------	------	-----------------	------	----------	-----

売上高営業利益率(%)



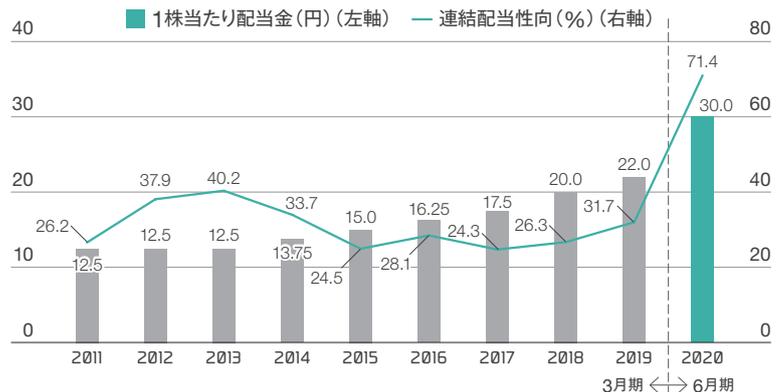
ROA(総資産当期純利益率)／ROE(自己資本当期純利益率)



決算期変更について

2020年6月期は3月末から6月末に決算期変更を行ったことから、2019年4月1日から2020年6月30日の15か月間となっております。そのため、表中は当該影響を考慮した数値を記載しています。

連結配当性向／1株当たり配当金*



*当社は、2013年10月1日付普通株式1株につき2株の割合および2017年10月1日付普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っています。そのため、当該株式分割を考慮した金額を記載しています。